



国連アジア各地図の範囲
 アジア地質図の範囲= I
 アジア石油天然ガス地図・アジア鉱産分布図の範囲= I + II

アジアの地質鉱産に関する国際連合出版物
 本誌 160号にエカフェ事務局の仕事を紹介申し上げた
 が 案外しられているようで 日本ではしられていない
 同局関係の出版物を こんどはここにご紹介申し上げよう
 と思う。この出版物には大きくわけて 次のような
 ものがある。

- 1) 地 図 類
- 2) 単 行 本
 - a) 各鉱産物ごとにまとめたもの
 - b) 毎年のアジア各国における地質 鉱産
 関係の活動をまとめたもの
 - c) エカフェ主催の会議・セミナー 見
 学旅行などの報告
 - d) その他

1)の地図類で現在までに出版されたものは500万の1のアジ
 アの地質図 石油および天然ガス地図それに鉱物分布地図
 の3つである

単行本はだいたい Mineral Resources Development
 Series 何号という番号がついていて 以下カッコ内にし
 る番号はこの番号である。

- 2) a) の各鉱産物ごとにまとめたものは不定期にであるが 今
 まででたものは 石炭および鉄鉱(1号) 褐炭(7号)
 銅鉄鉛鋅亜鉛鉱(14号) 錫鉱(23号) 肥料原料鉱物
 (23号) などである
- 2) b) は毎年であるのが原則の年鑑のようなものであるが 2
 年まとめたものがあり 1953年以降出版され最新の
 のものは1945-65年の20年間をとり扱った27号である。1968
 年1月1日現在ではこれが最近のもので 目下編集中の19
 66年に関するものはおそらく1968年後半には出版されよう
- 2) c) には現在の所 8冊あって 1953年のオーストラリア褐
 炭産業調査団の報告 1955年の西歐3連地質調査鉱業調査
 団のそれ 1959年のアメリカ合衆国カナダ地質調査鉱業調

バンコク エカフェ事務局通信④

沢田 秀穂

査団の報告 1958年の第一回石油資源開発シンポジウム報
 告 1960年の航空探査セミナーの報告 1962年の第2回
 石油シンポジウムの報告 1963年の地球化学探査セミナ
 ルの報告 1964年の天然ガス資源開発利用セミナーの報
 告 がそれである

2) d) には各国の鉱業法に関するもの(9号)と油田ガス田
 の実例報告 Case histories (20号)とがある

地図は上記既出版三図のほか準備中のものに 鉱床生
 成区図(日本の地質調査所が編集担当)と地質構造図と
 があり 改訂第二版を準備中のものに地質図がある。
 出版された地図全部と大部分の単行本とは市販され 日
 本では丸善などを通して誰でも求めることができる。
 一般に値段は割安のようで 本文では米ドルで示すが
 もちろんこれに相当する円その他の各国の金で買える。
 それでは次に各出版物について概略の様子をおしらせし
 よう。

1)-1 アジア地質図 Geological Map of Asia and the Far East

1959年出版 これはイランを含まず アフガニスタン以
 東 インドネシアまで ニューギニア西半 ポルトガル
 領チモール シナ本土が入っており 樺太(サハリン)
 千島の大部分が入っていない。オーストラリア、ニュー
 ージーランドも入っていない。アジア各国だけで作っ
 た最初のアジアの地質図で、万国地質学会(International
 Geological Congress)の地質図委員会(Commission for
 the Geological Map of the world)と協力している。
 つまり同委員会のアジアに関する部分の仕事のエカフェ
 が担当していたわけである。編集・製図をインドの地
 質調査所が担当し 印刷はインドの測量局が行なってい
 る。でき上りは最初のものであることもあり既刊3図
 中もっとも見劣りがする。出版の費用はアジア各国が
 分担した。500万分の1 投影法は Lambert Conical
 Orthomorphic Projection 多色刷 6図幅に分かれて
 いて全部を合わせた大きさは 1.85m×1.80m 説明書
 つき15米ドル 出版後すでにほぼ10年たち 内容 体裁
 とも改訂の時期にきているので インド地質調査所が再
 び編集主任となって改訂版の準備中。

1)-2 アジア石油・天然ガス地図 Oil and Natural Gas Map of Asia and the Far East 1962年出版 石油 天然ガス アスファルト 油母頁岩の産状 埋蔵量 生産高 調査開発状況 製油所 送油・ガス管の位置などを示し これら鉱物燃料の可能性に関連して地質構造 地層を画く。縮尺500万分の1 Lambert Conical Orthomorphic Projection 多色刷4図幅 全体の大きさは2.10m×1.50m 説明書なし 販売番号 62-1-16 12.50米ドル 当時 英領ボルネオの地質調査所所長であった故 F. W. Roe 博士が編集主任となり卓抜な創意をもって作成されたもの。印刷はオランダ でき上りは美しい。前記地質図の範囲のほかに イランが加えられている。

1)-3 アジア鉱物分布図 Mineral Distribution Map of Asia and the Far East 1963年出版 鉱物の分布を記号を以て示す。埋蔵量 開発状況などは示されていない。前記地質図を基図にしてその上に画かれているから地質もわかって便利。縮尺 投影法は前記2図に同じ。多色刷 イランを含む。説明書つき 4図幅 全体の大きさは 2.00m×1.50m 販売番号63-1-18 12.50米ドル 編集はインドと日本の地質調査所が共同主任となり 印刷は日本の印刷会社によって行なわれでき上りは非常によい。

2)-a) 各鉱産物ごとにまとめた単行本

① アジアの石炭および鉄鉱資源 Coal and Iron Ore Resources of Asia and the Far East (Mineral Resources Development Series No. 1) 1952年出版 編集当時にしられていたアジアの石炭・鉄鉱資源の量を示し調査の不十分なことを指摘して 第一部が調査の状況 既知資源 生産増加の可能性 第二部がこの地域の19の独立国や植民地について記している。本文151頁 英文 地図類26頁 表4頁 附録3頁 販売番号 1952. II. F. 1 1.50米ドル 出版以来すでに16年をへて古典的意味が加わってきている。Mineral Resources Development Series Number は印刷されていないが 同集の第1号である。

② アジアの褐炭資源 Lignite Resources of Asia and the Far East, their Exploration, Exploitation and Utilization (M.R.D.S.No.7) 1957年 出版

本書はアジアにおける褐炭資源の編集当時の状況をのべ 探査 採掘 選鉱 加工 利用について 多くの図版を用いて紹介している。とくに重点がおかれているのは 露天ぼりと火力発電における利用との二点である。

エカフェ構成国の移り変り(1947~1966)

年月	域内国		域外国
	準加盟国	加盟国	加盟国
1947年6月		インド フィリピン タイ	オーストラリア フランス オランダ ソ連 イギリス アメリカ合衆国
1947年11月	ビルマ カンボジア セイロン ホンコン マカオ 英領北ボルネオ	パキスタン	
1948年	ネパール	ビルマ インドネシア	ニュージーランド
1949年	韓国 ベトナム		
1952年	日本		
1953年		アフガニスタン	
1954年		カンボジア セイロン 韓国 日本 ラオス ネパール 南ベトナム	
1957年		マラヤ	
1958年	シンガポール ブルネイ 北ボルネオ サラワク	イラン	
1961年		外蒙古	
1963年		オーストラリア ニュージーランド 西サモア ツレシア	
1965年	脱退 X	シンガポール	
1966年		インドネシア	

- 第1章 アジアの褐炭の賦存状況と生産
- 第2章 褐炭鉱床の探査開発(探査 坑道ぼり 露天ぼり 探査採炭作業の失敗例とその理由)
- 第3章 処理(原炭の選炭 運搬 貯蔵 乾燥 ブリケット製造 炭塵製造 lignite dust production degasification ガス化)
- 第4章 利用(火力発電用 鉄鋼製造用 家庭用 手工業用 農業用 その他の産業用 肥料 動力源燃料 合成ゴムその他の化学製品などの製造上の原料として)

となっている。本文134頁 英文 図80 販売番号 1957. II. F. 3. 1.50米ドル ①とともに編集当時石炭資源が アジアで最も注目をひいていた鉱産物の一つであったことを示す点で歴史的意義もある。後にのべるM.R.D.S. No. 3 のオーストラリアの褐炭産業の見学旅行とともに 当時のアジア諸国の産業界に与えた貢献と刺戟とはその後のエネルギー源の著しい変転のために当初期待された程ではなかったかもしれないが なお十分評価されているのではなかろうか。

③ アジアの銅・鉛・亜鉛鉱資源 Copper, Lead and Zinc Ore Resources of Asia and the Far East (M.R.D.S. No.14) 1960年刊

エカフエ事務局で各種資料を編集したもので その原稿についてアジア各国政府の意見を求め10か国からの返事をえて これをもとり入れ最終原稿としている。内容は緒言（世界全体の生産と埋蔵量との関連におけるアジアの位置 当時の銅・鉛・亜鉛事情 将来の計画）

14の国・植民地別の各論 文献。本文63頁 英文 3表 10図 販売番号60. II. F. 8. 2米ドル

④ アジアのボーキサイト鉱資源とアルミニウム工業 Bauxite Ore Resources and Aluminium Industry of Asia and the Far East (M.R.D.S. No.7)1962年刊

この報告はエカフエの鉱物資源開発小委員会です以前に提唱された ボーキサイト資源とアルミニウム工業とに関するシンポジウムまたは会議を開催すべきかどうか各国政府が決定する資料としてエカフエ事務局がとりまとめたもので 同局手もとの資料による原稿とこれに対する各国政府の意見と追加資料とによる。内容は

- 第1章 アジアのボーキサイト資源
- 第2章 アジアのボーキサイト資源の地質と起源
- 第3章 ボーキサイトからアルミニウムまで
- 第4章 アルミニウム関係の技術
- 第5章 アジア各国のアルミニウム生産と生産能力
- 第6章 アジア各国におけるアルミニウム加工産業
- 第7章 アジア各国のアルミニウムの消費と将来の需要傾向

結論 文献 本文51頁 英文 11図 販売番号63. II. F. 2. 0.75米ドル

⑤ アジアオーストラリアの錫鉱 Tin Ore Resources of Asia and Australia (M.R.D.S. No.23)1964年刊

この報告はエカフエ事務局の資料と オーストラリアとアジアの錫鉱を産する国々との政府からの資料とにもとづいて編さんされたものである。内容は二部に分かれ第1部汎論ではアジア オーストラリアの錫産産を世界のそれとの関連において論じたもので開発史 世界の錫精鉱の生産 1953年から62年にわたるアジア オーストラリアの錫精鉱の生産 世界の粗錫生産 アジア オーストラリアの粗錫生産 世界の錫の消費と予想される需要傾向 アジア オーストラリアの錫の消費輸出制限と価格 アジア オーストラリアの錫鉱埋蔵量 第2部は国別の各論で オーストラリア ビルマ 中共 インドネシア 日本 韓国 ラオス マレーシアおよびタイを扱っている。付録としては1925—1947年間および1948年—62年間の世界錫精鉱生産高 同期間の世界の粗錫生産高 1948—1962年間の世界の錫の工業上の消費 国際錫理事会の会員国と配分があり また文献をあげている。本文51頁 英文 付表19 図9 販売番号65 II

F.4 0.75 米ドル。この報告書には新たにオーストラリアが入っているのは 同国が1963年エカフエ域内加盟国となつたためである。

⑥ アジアの肥料工業鉱物原料資源 Mineral Raw Material Resources for the Fertilizer Industry in Asia and the Far East (M.R.D.S.No.28) 1967年刊

この報告書は1967年12月 バンコクで開かれた肥料工業鉱物原料セミナーに提出された報告の一つで 本誌163号に同セミナーについて紹介した折おしらせしたもので その記事をご参照願いたい。これは1965年までにえられた資料にもとづいてあんだ原稿に対し各国から修正と新しい資料とを求めて再編したもので これと今年中に出版予定の上記セミナーの報告とを合わせるとアジア オセアニア（大洋洲）の肥料工業鉱物原料資源については非常によいまつた資料となると思われる。内容は緒言 第1部：アジア・オセアニアの肥料の消費 生産 現在および今後の供給源 第2部が域内各国の肥料原料鉱物資源を各国各肥料鉱物別にのべ 各国各論の終りと 最後の摘要 結論の後にそれぞれ参考文献をあげてある。本文75頁 英文 表58 販売番号68. II. F. 3. 1.50米ドル

2)一b) アジア各国（1962年以降は新たにエカフエの域内加盟となったオーストラリア ニュージーランドが入る）における地質産産関係の活動をまとめたものは1953年刊行の Development of Mineral Resources in Asia and the Far East を最初のものとして 以後原則的には年刊として出版され 1968年1月1日現在で11冊が刊行され 時には2年を1冊にまとめたものもあり 最新刊の M. R. D. S. 27号はエカフエ創設20周年を記念して1945～65年の期間についてまとめてある。

① 最初に公開された前記 Development of Mineral Resources in Asia and the Far East (M.R.D.S.No.

2) は 1953年4月まだ米ソ英などの連合軍占領下にあつた東京において開かれた Regional Conference of Mineral Resources Development の際の提出報文類と同会議の報告とをふくむもので 当時日本はまだ国連にもエカフエにも正式加盟しておらず日本人にとっては いろいろの意味で印象の深い会議の記録である。内容は第1部が会議そのものの報告 第2部は諸記録報文

- A) 一般的な演説類
- B) アジア地域の鉱物資源の地質調査
- C) 同地域の固体鉱物燃料現況
- D) 同地域の鉄鉱の現況

- E) 同地域の鉄合金・金属鉱物資源
F) 同地域の非鉄金属鉄物資源

となつている。1953年刊 本文366頁 英文 販売番号1953. II. F. 5. 3.50米ドル(本報告にはM. R. D. S. No は印刷されていない。)

② Mining Developments in Asia and the Far East, 1953-1954 (M.R.D.S. No 4) 1954年刊

アジアの鉱業活動の年鑑としては印刷物となった最初のもの。内容は新鉱床の発見 新坑開発—中小鉱山選鉱施設の設置 拡張を含む—および鉱物生産の経済的観察。資料は大部分各国政府の提供。第1部がとりまとめと予測で 対象は 燃料 鉄鉱と鉄合金原料鉱物資源 非鉄金属 貴金属 軽金属 非金属鉱物資源 鉱産関係政策 鉱産開発 第2部は城内20の独立国と植民地の各論 本文83頁 英文 地図18 販売番号1945. II. F. 2 0.70米ドル

③ Mining Developments in Asia and the Far

East, 1954-1955 (M.R.D.S. No.5) 1955年刊 域内鉱業発展年鑑の第2号。1954—55年分の第1部と第2部および1945年—1954年の10年間の域内のおもな鉱業発展を扱った付録とからなる。第一部は鉱物調査 鉱業法規 鉱産関係機関 生産(燃料 鉄鉱 鉄合金鉱資源(非鉄金属鉱貴金属鉱資源 軽金属 放射能鉱物 非金属鉱物) 第2部はアフガニスタンをふくむ20の独立国 植民地の各論である。北ベトナムの取り扱われているのは本号が最後で以後の年鑑にはあらわれない。本文70頁 英文 販売番号1956. II. F. 4. 0.70米ドル

④ Mining Developments in Asia and the Far East, 1956 (M.R.D.S. No.8) 1957年刊

鉱業発展年鑑第3号。1955年7月1日から1956年12月30日までの期間を扱い 資料はおもに各政府からのもの。第1部は燃料 鉄鉱 鉄合金鉱 非鉄金属鉱 軽金属とその鉱石類 その他の鉱物と各種鉱物製品に関する一般的記述。第2部は城内20の独立国 植民地の各論で本号では中共は取り扱われていないし北ベトナムもない。付録として域外国中 オーストラリア ソ連 アメリカ合衆国について鉱業の発展をのべている。本文63頁 英文 販売番号1957. II. F. 4. 0.70米ドル

⑤ Mining Developments in Asia and the Far

East, 1957(M.R.D.S.No.11) 1959年刊 鉱業発展年鑑第4号 資料源はおもに各国政府。第1

部の内容は前号同様 放射能鉱物も扱われている。第2部は21の独立国・植民地を扱い 中共がその中にはいつている。本文50頁 英文 販売番号59. II. F. 4. 1.35米ドル

⑥ Mining Developments in Asia and the Far East, 1958 (M.R.D.S. No.13), 1960年刊

鉱業発展年鑑第5号 資料はおもに各国政府による。第1部は前号と同様。第2部にはイランが加わり 21の独立国・植民地。中共がなくなる。本文37頁 英文 販売番号60. II. F. 4. 1.50米ドル

⑦ Mining Developments in Asia and the Far East, 1959 (M.R.D.S. No. 15), 1961年刊

年鑑第6号 資料はおもに各国政府による。第1部は前号同様の各種鉱物についての 生産・新鉱床の探検開発 鉱物およびその製品の貿易 第2部では22の独立国 植民地が扱われ 中共がまた現われる。本文48頁 英文 販売番号61. II. F. 3. 0.75米ドル

⑧ Mining Developments in Asia and the Far East 1960 (M.R.D.S. No. 16) 1962年刊

年鑑第7号 資料おもに各国政府のもの 内容は緒言 第1部 第2部で 第1部としてはおもな鉱産物についての本域の情況(鉱物燃料その他前号と同様) 第2部は21の独立国・植民地の各論 中共がまた消え以後現在まで現れない。本文85頁 英文 地図27があつて14の国の鉱物分布を示している。販売番号62. II. F. 6. 1.50米ドル

⑨ Mining Developments in Asia and the Far East, 1961 (M.R.D.S. No 19) 1963年刊

年鑑第8号 資料源はおもに各国政府 内容は緒言 第1部主要鉱産物についての現況 第2部20の独立国・植民地の各論 ラオスがない。本文68頁 英文 販売番号64. II. F. 2 1.00米ドル 1957年度年鑑以後その発行がおくれ 本号も2年後の1963年の刊行となっている。この件については後にふれる。

⑩ Mining Developments in Asia and the Far East, (M.R.D.S. No. 22) 1964年刊 年鑑第9号

資料はおもに各政府から 内容は前号と同様 第2部の国別各論には本号から新たにオーストラリアとニュージーランドが加り また前号までの英領ボルネオ マラヤ連邦がなくなり ブルネイとマレイシアになる。本文74頁 英文 ネパールの鉱物分布図がある。販売番号

64. II. F. 13. 1米ドル

① Mining Developments in Asia and the Far East, 1963 (M.R.D.S. No. 24), 1965 年刊

年鑑 第10号 資料源 内容とも前号同様 本文67頁
英文 販売番号65. II. F. 14. 1米ドル

② Mining Developments in Asia and the Far East, A Twenty-Year (1945-1965) Review to Commemorate the Twentieth Anniversary of ECAFE (M.R.D.S. No. 27), 1967 年刊

年鑑第11号 前にのべたようにエカフエ20周年を記念して1945—65年の期間を扱ったもの。資料源 内容は前号と同様。中共 北ベトナム 北鮮 外蒙 西サモアはない。本文136頁 英文 表が101もあり 20年間にわたる記録を示すものも多く 色々の方々のお役にたつのではないかと思う。販売番号67. II. F. 12. 2.50米ドル

2)-c) エカフエ主催の会議 セミナール 見学旅行などの報告としては 現在までに次のような合計9冊が出版されている。

① オーストラリアの褐炭産業 The Australian Lignite (Brown Coal) Industry in Relation to the Development of Low Grade Coal Deposits in Asia (M.R.D.S. No. 3) 1954 年刊

アジア各国の褐炭専門家の調査団が1953年オーストラリアを訪問した時の報告で 当時のアジアのエネルギー資源事情を象徴するとも考えられる。内容は第1部が調査団成立の経過をのべ 第2部はオーストラリア褐炭産業事情の概説 第3部がオーストラリアにおける褐炭産業関係の諸機関 作業方法 利用方法 これらのアジア各国の現状に対する適用の可能性 付録として参加したアジアの国々の褐炭資源開発に関する報告と調査旅行中にえられた技術的資料となっている。本文175頁 英文 25の地図 図 写真などがある。タイプオフセット刷り 資料番号 ST/TAA/SER. C/15 0.75米ドル M.R.D.S. No. は印刷されていない。

② ヨーロッパおよびソ連の地質調査と鉱業の発展

Geological Survey and Mining Development in Europe and in the USSR-Report of the Study Group of Geologists and Mining Engineers from Asia and the Far East on their Visit to Western Europe and the Soviet Union (M.R.D.S. No. 6) 1958 年刊

1955年アジア各団から西欧およびソ連に行った地質・

鉱山技師たちの見学国の報告。この見学旅行の目的は

- (a) 石炭と金属との探査に関連しての全国的地質調査の構成と計画
- (b) 初級地質技師・採鉱技師の訓練
- (c) 調査・探査の方法・機器
- (d) 石炭・金属鉱物の探査・開発

などについて学ぶにあった。この報告は

- 第1章 緒言
- 第2章 全国的な地質調査の構成と計画
- 第3章 地質技師・採鉱技師の訓練
- 第4章 調査・探査の方法・機器
- 第5章 燃料鉱床の探査・開発
- 第6章 鉄鉱・鉄合金鉱物資源の探査・開発
- 第7章 非鉄金属鉱物資源の探査・開発
- 第8章 勧告 付録

となっている。本文215頁 英文 31図 資料番号 ST/TAA/SER. C/27 1.50米ドルこれも M.R.D.S. No. が印刷されていない。

③ アメリカ合衆国カナダ見学団報告 Report of the United Nations Study Group of Geologists and Mining Engineers from Asia and the Far East on their Visit to the United States and Canada 1963年刊

この報告書は国連事務局本部から直接出版され公刊がたいへんおけているが 実は1959年上記見学団が米・カ両国を訪れた時の報告で 第1部がこの旅行の由来と日程 観察 示唆勧告 第2部がウラン ポーケサイト 銅ニッケル 鉛亜鉛 石油天然ガス 工業用鉱物 地質調査所 鉱山局 訓練などについての各報告となっている。本文121頁 英文 地図と表 (27図) 計38頁 資料番号 ST/TAO/SER. C/52 M. R. D. S. No. はなく 同集の中にも入っていない。タイプオフセット刷り。値段がなく市販されないものと思われる。

④ アジアの石油資源開発に関するシンポジウム報告

Proceedings of the Symposium on the Development of Petroleum Resources of Asia and the Far East (M.R.D.S. No.10) 1959年刊。1958年インドのニューデリーで開かれた同シンポジウムの報告とおもな提出報文類とをまとめたもの。第1部はシンポジウムそのものの報告 第2部が技術的な報文類をあつめたもので 一般的報文 エカフエ地域全体に関するもの 域内各国の石油資源開発に関するもの 域外各国の石油資源開発に関するもの 石油資源開発に関する諸規則についてのものなど。地図類と図類とは別冊付録となっている。販売番号1959. II. F. 3 本文251頁 英文 2.50米ドル

別冊付録は M.R.D.S. No. 10 Annex, 販売番号59. II. F. 3. (Annex) 地図および図が72 1.00米ドル。

⑤航空調査法と機器に関するセミナー報告

Proceedings of the United Nations Seminar on Aerial Survey Methods and Equipment (M.R.D.S. No. 12) 1960年刊 1960年タイのバンコクで行なわれた同セミナーの報告とおもな提出報文類とをまとめたものでこのセミナーの目的は 次のようなものについての基礎的情報をひろめるのが目的であった。 すなわち

- (a) 現在使用されて成功している技術と機器
- (b) その適用と限界
- (c) このような調査の編成
- (d) 本地域でみられた特殊問題

この報告の第1部はセミナーそのものの報告 第2部が技術的報文類で エカフエ地域の航空調査活動 空中写真 空中写真測量 空中写真解析 空中物理探査などに関するもの。 本文167頁 英文 図43 販売番号60. II. F. 5. 3.00米ドル 印刷された写真の中には必ずしも鮮明でないものがあり また不当に縮刷された図もある。

⑥ Proceedings of the Second Symposium on the Development of Petroleum Resources of Asia and the Far East (M.R.D.S. No. 18) 1963年刊

1962年イランのテヘランで行なわれた同シンポジウムの報告とおもな提出報文類とをおさめたもの。 第1部はシンポジウムそのものの報告 第2部が技術的報文類をあつめたもので

- A) 石油産業の最近の進歩
- B) とくにエカフエ地域との関連における石油地質
- C) とくにエカフエ地域との関連における石油探査技術・方法
- D) 同じく石油開発技術・方法
- E) 同じく天然ガスの生産 貯蔵 運搬 利用
- F) 石油探査 生産 精製 配送などの経済
- G) 技術的訓練 エカフエ地域内の現存施設の調査と将来の需要—石油資源開発の分野での国連の活動に関する一報文を付す

二巻に分かれ 第1巻本文488頁 英文 図184 第2巻 本文466頁 英文 図139 販売番号63. II. F. 3. (第1巻) 63. II. F. 9. (第2巻) 各巻それぞれ5.50米ドル

⑦ 地球化学探査方法・技術セミナー報告 Proceedings of the Seminar on Geochemical Prospecting and Techniques (M. R. D. S. No. 21) 1963年刊

1963年8月 タイのバンコクで催された同セミナーの報告と主要提出報文をまとめたもの。 第1部はセミナーそのものの報告 第2部は技術報文類で 地球化学探査の各国別情況 分析技術 重鉱物概査 ラテライト 鉱床の地球化学 各金属の地球化学探査 地球化学探査と他の鉱物探査法との综合利用 石油・天然ガスの地球化学探査 本文202頁 英文 図87 販売番号64. II. F. 7. 2.50米ドル

⑧ 天然ガス資源開発利用セミナー報告 Proceedings of the Seminar on the Developmet and Utilization of Natural Gas Resources (M.R.D.S. No. 25) 1965年刊

この報告は1964年12月イランのテヘランでエカフエが国連技術援助局 (BTAO) の協力をえて開いた天然ガス資源の開発と利用に関するセミナーの報告とおもな提出報文とをおさめたもので 2部からなり 第1部はセミナーそのものの報告 第2部主要報文 第2部は項目別に次の8つに分かれる:

- A) 天然ガス開発の最近の進歩
- B) 天然ガス田の開発・稼行・保全
- C) 法律および管理の点からみた天然ガス産業
- D) 天然ガス産業開発の財政面
- E) 天然ガスの運搬・貯蔵・配送
- F) 天然ガスとその関連生産物との販売上の諸問題
- G) 天然ガスとその関連生産物との利用
- H) 天然ガス開発と 天然ガスを基盤とする諸産業建設とにおけるエカフエ全地域としてのとるべき方策

本文436頁 英文 図91 表115 販売番号66. II. F. 6. 5.00米ドル。

2) —d) その他に関する単行本

① 鉱業法規の調査 Survey of Mining Legislation, with Special Reference to Asia and the Far East (M. R. D. S. No. 9) 1957年刊

この報告が用意された目的は 各専門家がよそでの経験に学んで現存法規に適当な修正をするよう 各自の政府に勧告できるように また外国や私企業がこの地域ではどのような条件下に投資せねばならぬかがよくわかるように ということであった。 内容は一般的考察 第1部一政府側資料による域内15国・植民地の鉱物関係法規の調査 第2部一域外8か国域内4か国の最近の石油関係法規の比較調査 付録として 1952年のイラク政府と3石油会社との間の協定がある。 第3部は域外6か国地域の鉱業法からえらんだ鉱物関係法規の比較調査。 本文111頁 英文 販売番号1957. II. F. 5 1.25米ドル (以下40頁へつづく)